

学校教育目標	◎すすんでする子 ○健康な子 ○考える子 ○協力する子	【目指す学校像】	子供一人一人の『幸せ(ウェルビーイング)』を具現化する学校+教職員一人一人の『働きがい』を具現化する学校
		【目指す児童・生徒像】	どの共同体でも力を発揮できる子(2030/2040年の日本を生きる子供たちへ) cfエージェンシー(社会を変革する力)の育成
		【目指す教師像】	子供の幸せを念頭に、教育者としての熱意とスキルを併せ持つ教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策	
確かな学力	主体的な学びの推進を通して、児童・教師が「光華遊学」の成果を実感する	対話力の向上	①対話を取り入れた授業づくり ②対話に必要な児童のスキル向上	4 2項目に取り組み成果を上げた	3	4 90%以上の児童が話合って学ぶことは楽しいと回答	4	児童肯定群91%。対話的な学びの重視がこの結果につながっている。	対話力の向上は人間関係関係にも影響大きい。路上で大きな挨拶してくれる児童あり。今後も推進を期待する。	A	引き続きホワイトボードや思考ツールの活用を含め、対話力を学力の土台として重点化する。	
				3 2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が話合って学ぶことは楽しいと回答						
				2 1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が話合って学ぶことは楽しいと回答						
		問題解決型学習の推進	①新しい学びの推進 ②ファシリテーションを意識した授業づくり	4 2項目に取り組み成果を上げた	3	4 90%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答	4	児童肯定群92%。自由進度型学習はじめ、一方通行でない学びの効果と考える。	児童肯定群92%。自由進度型学習はじめ、一方通行でない学びの効果と考える。	教科横断的な学習、問題解決型学習を通し、児童の「面白そう」「やりたい」を実現する学習活動が補償されている。	B	次年度も教科横断型、自由進度型、プロジェクト型の3つの学びを軸に、児童の主体性を引き出す
				3 2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答						
				2 1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答						
		教育DXの推進	①教師自身のスキル向上 ②児童の情報活用能力向上	4 2項目に取り組み成果を上げた	3	4 90%以上の児童がタブレットは役に立つと回答	4	児童肯定群98%。教師自身の研修、ICT担当者の精力的な働きかけがタブレット活用の日常化につながっている。	児童肯定群98%。教師自身の研修、ICT担当者の精力的な働きかけがタブレット活用の日常化につながっている。	指導者のスキル向上が先決ではないか。外部講師による教員研修が効果的。	A	タブレットの積極的活用とともに、ネットリテラシーにもさらに重点を置く。
				3 2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童がタブレットは役に立つと回答						
				2 1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童がタブレットは役に立つと回答						
豊かな心	多様な見方・考え方を受け入れたり、自ら楽しさ(ワクワク・ドキドキ)を見出す心のクセを身に付ける	多様性を認め合う心の醸成	①多様な意見や考え方を享受する機会の充実 ②意見や考えを出せる安心感の醸成	4 2項目に取り組み成果を上げた	4	4 90%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答	4	児童肯定群99%。多様な学びの過程で、必然的に肯定的なかかわりとながっているのではないかと考える。	遊びの中で子供たちの豊かさが育つ。積極的な外部連携が多様性の享受につながっているのではないかと考える。	A	引き続き多様性の相互承認を教育活動の土台に置く。	
				3 2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答						
				2 1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答						
		感性を豊かにする教育の充実	①感性や体験活動を重視した教育の充実 ②読書活動の充実	4 2項目に取り組み成果を上げた	3	4 90%以上の児童が「本や音楽や図工、自然が好きです」と回答	4	児童肯定群92%。特に専科の尽力で芸術的体験の増加が成果につながったと考える。	児童肯定群92%。特に専科の尽力で芸術的体験の増加が成果につながったと考える。	理屈ではない感性の豊かさが重要。図書ボランティアの活用も充実。音楽会は見事だった。	A	引き続き児童の豊かな感性を磨く活動を重視、外部人材も積極的に活用する。
				3 2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「本や音楽や図工、自然が好きです」と回答						
				2 1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「本や音楽や図工、自然が好きです」と回答						
		特別支援教育の充実	①特別支援教育の充実(スキル活用、連携含む) ②児童への理解啓発	4 2項目に取り組み成果を上げた	4	4 90%以上の児童がいろいろな人がいてよい、と回答	4	児童肯定群99%。拠点校として特別支援教育の理解啓発が進んだ成果と考える。	児童肯定群99%。拠点校として特別支援教育の理解啓発が進んだ成果と考える。	自由進度など個別最適な学びが充実している。今後も、児童の特性をくみ取る指導の充実を期待したい。	A	今後も多様性の相互承認を基盤に、インクルーシブ教育を推進する。
				3 2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童がいろいろな人がいてよい、と回答						
				2 1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童がいろいろな人がいてよい、と回答						
健やかな体	自らの健康を保持・増進する生活習慣の定着	体を動かす喜びの実感(「遊び」の重視)	①体育の授業改善 ②元気アップタイムの推奨	4 2項目に取り組み成果を上げた	3	4 90%以上の児童が「学校で遊んだり体を動かしている」と回答	3	児童肯定群84%。体育的行事は充実したが、体育の授業改善が課題として残る。	遊びによって得られるものの具現化を望む。子供たちの元気な声が校庭から聞こえてくる。スポーツフェスを評価	A	体育担当者の中でOJT担当を決め、定期的な体育授業研修をめざす。	
				3 2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「学校で遊んだり体を動かしている」と回答						
				2 1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「学校で遊んだり体を動かしている」と回答						
		生活習慣の改善	①GM60の推進 ②食育の推進	4 2項目に取り組み成果を上げた	3	4 90%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答	4	児童肯定群90%。担当者の尽力で食育の全校指導が定期的実施された。	児童肯定群90%。担当者の尽力で食育の全校指導が定期的実施された。	GM60など日常生活を見つめる指導を評価。	B	食育をテーマにした学習を推奨。GM60は家庭への啓発を充実させる。
				3 2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答						
				2 1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答						
		自他の「性・生命」の尊重	①いじめ防止の推進 ②命を大切に教育(包括的性教育)の推進	4 2項目に取り組み成果を上げた	3	4 90%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答	4	児童肯定群95%。SOS教育の日常化が安心感につながっていると考えられる。	児童肯定群95%。SOS教育の日常化が安心感につながっていると考えられる。	清泉中学区での共通した取り組みを評価。児童の9割が安心して通学していることも評価できる。	A	いじめ防止の徹底と共に、いじめに遭った時の具体策も併せて重点化する。
				3 2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答						
				2 1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答						
輝く未来	agencyの獲得	「まず、やってみよう！」精神の浸透	①「まず、やってみよう！」の形成 ②周囲に役立つ喜びの重視	4 2項目に取り組み成果を上げた	4	4 90%以上の児童が「やってみよう」を大切にしていると回答	4	児童肯定群91%。まずやってみよう！精神は校内への浸透を感じる。	まず、やってみよう！の定着は自己肯定感にもつながると感じる。教師自身がまずやってみよう、を実践している。	A	「まず、やってみよう！」精神は今後も学校経営の中心におく。	
				3 2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「やってみよう」を大切にしていると回答						
				2 1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「やってみよう」を大切にしていると回答						
		他者や地域と「つながる」喜びの実感	①外部人材の活用 ②目的を明確にした各行事の充実	4 2項目に取り組み成果を上げた	3	4 90%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答	3	児童肯定群88%。多くの学年が積極的に外部人材を活用した成果と考える。	児童肯定群88%。多くの学年が積極的に外部人材を活用した成果と考える。	地域連携を大切にしていることを十分発信している。地区委員会と児童の企画は大成功であった。	A	地域学校協働活動の推進を念頭に、地域人材の活用を積極的に進めていく。
				3 2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答						
				2 1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答						
		自己理解力の向上	①「心をとめる」指導の充実 ②学習の自己評価活動	4 2項目に取り組み成果を上げた	3	4 90%以上の児童が「心をとめることを大切にしていると回答	4	児童肯定群94%。心をとめる、は教員共通のキーワードとなっており、児童の中にも浸透している。	児童肯定群94%。心をとめる、は教員共通のキーワードとなっており、児童の中にも浸透している。	教職員が「心をとめる」意義を再確認し、学校全体の共通理解を推進してほしい。	B	「心をとめる」をキーワードに、他者の意見尊重する中で自己を見つめる機会を重視していく。
				3 2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「心をとめることを大切にしていると回答						
				2 1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「心をとめることを大切にしていると回答						